

式 辞

みなさん、卒業おめでとうございます。

今日は、私の4年間を振り返りながら、みなさんへの励ましとなる言葉を贈ろうと思います。

今からちょうど4年前の、2017年3月31日のことから始めます。

その日私は、東京にある国文学研究資料館の館長から、定年退官の辞令をいただきました。そしてすぐに、新幹線で京都の自宅に帰りました。

明るく4月1日。泉佐野市立文化会館で、明浄学院の理事長から大阪観光大学の採用となる辞令をいただき、そのまま入学式に出席しました。それが、みなさんと最初に出会った日です。つまり、私はみなさんと一緒に、ちょうど4年前に、この大阪観光大学での生活をスタートさせたのです。

2年間、この大阪観光大学にいた後、次に大阪大学へ移りました。

ところが運命のいたずらか、みなさんが4回生の夏、つまり去年の7月に、私は学長としてこの大阪観光大学に帰ってくることになりました。そして、2年前に別れたみなさんと、再会することになったのです。

元気に前を向いて生きていると、いろいろなことがあります。

そこで、今日はみなさんに、健康の大切さをお話します。

私は、身体の中の臓器がいくつかありません。消化器官がほとんどないのです。主治医は、私がなぜ元気で生きていられるのか説明しにくい、とおっしゃいます。

私は18歳の時、新聞配達をしながら学校に通っていました。そして、配達を終えてお店に帰ってすぐに、十二指腸が突然破れて意識を失いました。無事に命をとりとめ、胃の3分の2と十二指腸などの臓器がないままに、毎日を過ごしてきました。それからずっと今まで、私の身体には内蔵の消耗期限があるため、「明日が来る保障はない」と自分に言い聞かせて仕事をし、生きてきました。

寿命とされた45歳は、無事に通過しました。59歳でガンが発症し、また臓器を減らしました。今、69歳です。ご覧の通り、痩せてはいるものの普通の身体に見えますと思います。しかし、昨年、この大阪観光大学に来る直前に、2回も入院して手術を受けました。つい先日のこと、今から2週間前にも、突然死に関する病気の治療で入院していました。身体がひ弱だからと言って、仕事の手は抜かず、私の身体のことでは先生方や事務職員の方に迷惑はかけてはいません。

自分の身体を守るために、私は何か体調に変化があると、すぐに近所の「かかりつけ医」の所に駆け込みます。いつも、早期発見で命拾いをしているのです。また、腕にはウェアラブルコンピュータであるスマートウォッチを着けています。常に、「心拍数」「血中酸素濃度」

「心電図」、さらには体温と体重を記録。今年の秋からは、この時計が血糖値も測ってくれるようです。糖尿病を患っている私は、血液検査をしなくても、常時この時計で血糖値がわかるようになるのです。生き続けていくために、こうした努力を続けています。

そこで、みなさんに今日言いたいことは、とにかく貪欲に生き続けてほしい、ということです。生きていれば、思いがけないことに出会います。いいことも、悪いこともあるでしょう。しかし、それを泳ぎ切るのが、自分に課せられた宿命だと思ってください。

私は、「明日は来ない」ということを心に刻み込んで生きてきました。すると、怖いものはなくなります。15年間にわたるインドとの文化交流で学んだ「何でもあり」という精神が、私の迷いを断ち切ります。全力で物事に打ち込めます。その結果をどう評価するのかはともかく、今の自分の判断を信じるしかありません。

新型コロナウイルスや、その変異種により、昨年春から、突然病に侵されることのある時代になりました。みなさんも、十分すぎるほどに自分の身体をいたわり、健康で生き抜いてください。何か身体に変調があれば、すぐにお医者さんに診てもらうことが、自分を守り、周りの仲間を守る一番の対策です。

みなさんはこれから、それぞれの新しい生活が始まります。自分の身体を大事にして、明日からではなく、今この時に精神を集中した生活を送ることを、心がけてください。

みなさんのますますの健康と活躍を楽しみにしています。

以上、卒業をお祝いする私からのことばとします。元気で、稔り多い日々を送ってください。

2021年3月18日
大阪観光大学
学長 伊藤鉄也